

酒蔵ツーリズムを活用した地域再生の現状と課題

Current status and issues of regional revitalization utilizing sake brewery tourism

○許 絢華¹, 山中 新太郎²

*Hyunhwa Huh¹, Shintaro Yamanaka²

Expectations for sake breweries are increasing as an influence on the landscape and as the tourism resources, and that has making multifaceted effects in various places. This study aims to contribute the revitalization of sake brewery tourism by clarifying the characteristics of the areas where sake brewery tourism is undertaken.

1. はじめに

1-1 研究の背景と目的

近年、地域の核（景観上の構成要素、観光資源）として酒蔵への期待が高まっており、各地で多面的な取り組みが行われている¹⁾。酒蔵を利用した取り組みの事例として酒蔵ツーリズムが挙げられる。酒蔵ツーリズムは市内の酒蔵と地域が持つ文化や歴史を国内外へ情報発信をし、蔵元だけではなく市全体への活性化に寄与することを目的としている²⁾。しかし、実際に実行できている地域は少ない。本研究では、酒蔵ツーリズムに取り組んでいる主な地域の調査、分析を行うことで酒蔵ツーリズム普及の一助とすることを目的とする。

1-2 研究の位置付け

酒蔵ツーリズムに関する研究については、池ら^{3) 4)}が酒蔵ツーリズムにおける訪問者ニーズに沿った空き蔵のリノベーションに関する研究を行なっている。また、酒の生産地域に着目している研究については、矢ヶ崎⁵⁾が特定の対象地域におけるワインツーリズムに着目し、ワイン生産地域の特徴を明らかにしている。しかし、酒蔵ツーリズムにおいては、このような研究が見られない。本研究は酒蔵ツーリズムに取り組んでいる主な地域を分析することで、今後の酒蔵ツーリズムにおける知見を得ることを目的とする。

1-3 研究の方法

本研究では以下の5つを用いて研究を行う。

- ①日本酒造組合中央会⁶⁾に所属する酒造会社を対象に、酒造会社数や分布、各社の見学直売機能を把握する。
- ②酒蔵ツーリズムに取り組む4つの地域を対象に、文献調査を行う。各地域の歴史などについて把握する。
- ③同様の地域を対象に、現地調査を行う。酒造各社の見学直売機能の実態把握や行政が行う景観や建造物保存に関する取り組み、酒蔵を利用した観光での取り組みを把握する。
- ④同様の地域を対象に、比較分析を行う。

- ⑤日本酒造組合中央会⁶⁾に所属する酒造会社を対象に、酒蔵ツーリズムの課題と可能性の考察する

2. 全国の酒造会社

日本酒造組合中央会に所属する酒造会社は、全国に1,398社ある。その中でも見学機能を有する酒造会社は全体の約1/3を占めている。見学機能を有する酒造会社うち試飲販売所どちらかを有する酒造会社は約65%を占めている(図1)。年間来場者数は、10,000人以下が約38%を占め、少ない。また、来場者数を把握していない酒造会社が47%も存在することがわかった。(図2)。このように酒造会社の多くが見学直売機能を有しているのにも関わらず、来場者数が少なかったり、来場者数を把握していない酒造会社が多く、酒蔵見学の機会が有効に活かされていないと思われる⁶⁾。

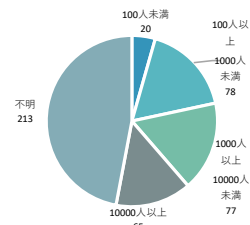
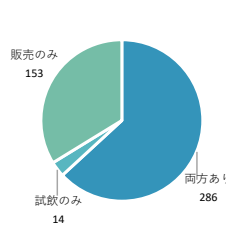


図1 試飲販売所の有無

図2 年間来場者数

3. 現地調査

以下のような4つの地域で現地調査を行なった。

- ・酒蔵ツーリズムの先駆けである「鹿島市肥前浜宿」
- ・日本三大銘醸地と呼ばれる「東広島市西条」「神戸市灘」「京都市伏見」

現地調査では、酒蔵ツーリズムの実態把握を行った。調査結果を表1の通りに分類し、今回は一部を抜粋して地域ごとに述べる。

表1 地域ごとの分類項目

Category	Classification Item
I. 産業	地域における酒蔵の歴史の変遷や現状
II. 建築	景観・歴史的建造物保存に関する行政の取り組みや酒蔵建築の特徴
III. 観光	酒蔵を利用したイベント

1 : 日大理工・院(前)・建築 2 : 日大理工・教員・建築

3-1. 佐賀県鹿島市肥前浜宿

I. 産業

現在、製造販売を行う酒造会社は6社あり、その内の半分が見学直売機能を有している。

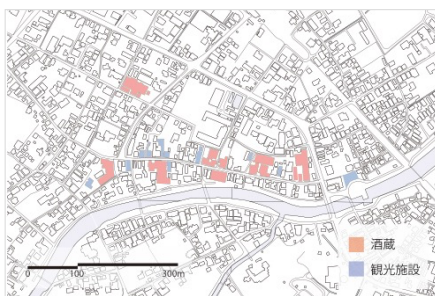


図3 肥前浜宿の酒蔵・観光施設の分布^{注1)}

II. 建築

肥前浜宿は平成18年(2006)に重伝建地区に登録されている。市が行う「保存修理事業」では、地区内で特定物件に指定されている建造物を対象に、修理修景の補助を行っている。また、住環境の向上や観光施設整備を目的に電柱移設や道路美化が行われている⁷⁾。

3-2. 広島県東広島市西条

I. 産業

現在、製造販売を行う酒造会社は7社あり(図4)、全てが見学直売機能を有している。



図4 西条の酒蔵・観光施設の分布^{注1)}

II. 建築

西条酒蔵通りは、平成14年(2002)に設立した酒蔵地区まちづくり協議会から提示された事業計画に沿ってまちづくりが進められており、道路の美化や通り沿いの街灯の整備などが完了している⁸⁾。

3-3. 京都府京都市伏見

I. 産業

現在、製造販売を行う酒造会社は22社あり、その内の5社が見学直売機能を有している(図5)。



図5 伏見の酒蔵・観光施設の分布^{注1)}

II. 建築

市が指定する界わい景観整備地区内では、道路等の公共の場所から見える部分の補修・修景が補助の対象となっている。また、地区内における、町並みの景観を特色づけてい

る建造物等を保全修景する際の補助対象としている⁹⁾。

III. 観光

酒蔵を活用したイベントは行われていない。

3-4. 兵庫県神戸市灘

I. 産業

灘は5つの酒蔵密集地域によって構成されている。

現在、灘全体で製造販売を行う酒造会社は21社あり、



図6 灘(御影郷)の酒蔵・観光施設の分布^{注1)}

その内の14社が見学直売機能を有している(図6)。

II. 建築

まちなみ委員会が行なう「魚崎郷地区景観形成市民協定」では、対象の景観道路沿いにある建造物の屋根形状等に対して制限を設けている。市民協定による制限のため、補助制度は設けられていない。

また、市独自で行われている保存制度は見当たらなかった。歴史的建造物が少ない要因としては、阪神淡路大震災が挙げられる¹⁰⁾。

4. 今後の進め方

今後は以下の方法で研究を進めていく。

①調査地の比較分析

I. 産業 II. 建築 III. 観光を地域ごとに比較分析を行い、酒蔵ツーリズムの普及に向けた課題と可能性を考察する。

②2章で抽出した酒造会社に対する酒蔵ツーリズムの可能性を考察する。

注釈

注1) 国土地理院基盤地図より筆者が編集

注2) 筆者撮影

参考文献

- 1) 谷本互: 酒蔵の維持・発展システムについて, 日本醸造協会誌, 第92巻3号, pp. 169-175, 1997
- 2) 鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会「鹿島酒蔵ツーリズム」
/http://sakagura-tourism.com/main/5.html/令和2年3月20日閲覧
- 3) 池隆裕・紙屋征邑・小玉祐一郎・浅野耕一・金子尚志: 酒蔵ツーリズムにおける訪問者ニーズに沿った空き蔵のリノベーションに関する研究 その1 アンケートによる訪問者の実態調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集(中国), 2017. 8
- 4) 池隆裕・紙屋征邑・小玉祐一郎・浅野耕一・金子尚志: 酒蔵ツーリズムにおける訪問者ニーズに沿った空き蔵のリノベーションに関する研究 その2 蔵造りと組積造の建築的印象評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集(中国), 2017. 8
- 5) 矢ヶ崎典隆: カナダ・ブリティッシュコロンビア州オカナガンバレーのクローナ地域におけるワインツーリズム, 地理空間, 9-1, 131-145, 2016
- 6) 日本酒造組合中央会/https://www.japansake.or.jp/common/outline/index.html/令和2年5月13日閲覧
- 7) 鹿島市建設環境部都市建設課, 肥前浜宿 重要伝統的建造物群保存地区
- 8) 酒蔵のあるまち並み
https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teukuri/pdf/Part26_H23/H23_taisy_ou_03.pdf/令和2年9月25日閲覧
- 9) 京都市都市計画局都市景観部景観政策課, 伏見南浜界わい景観整備地区
- 10) 魚崎郷まちなみ委員会, 酒蔵と清流のまち 魚崎郷